

## 令和2年度の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>①将来の目標をもたせ、生徒の能力を最大限に伸ばす。                  ②自律の精神を培い、望ましい社会性を養う。                  ③多様な生徒へのきめ細やかな対応を組織的に行う。                  ④P T A、同窓会及び地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。                  ⑤組織及び個人の両面におけるコンプライアンスを徹底する。                  ⑥円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を構築する。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>総務</p>	<p>① 報活動の充実                  ②防災意識の向上                  ③学校と保護者の協力体制の充実</p>	<p>・HP掲載手順の明確化                  ・防災教育の研究と実践                  ・P T Aの情報交換を密にする</p>	<p>・手順は明確になったと言える。しかし、掲載業務を少ない教員で担当しているため負担が大きく、より多くの更新を呼びかけにくい現状がある。                  ・最低限の取組にとどまり、生徒の意識向上につながるような働きかけができなかった。                  ・P T A役員・理事の方々の声を聴く機会はある程度持てたが、その他の多くの保護者の声が聞けていない。</p>
<p>学習指導</p>	<p>①65分授業の充実                  ②個々の生徒に応じた学習指導の確立</p>	<p>・個々の教員が教科指導力を向上させ、授業改善を図る                  ・多様化する生徒に対応しつつ、生徒が主体的に学習する姿勢を育てる</p>	<p>・「年間指導計画並びに実施表」利用による指導計画の立案や振り返りについては軌道に乗っている。                  ・指導力向上を図るため、前年度から教員間での授業参観週間を1週間設定し、自由に授業を参観できる機会を設けた。この機会が有効に活用されるよう、次年度も継続していきたい。                  ・家庭学習での課題については、各教科で狙いや目安時間等の指示をするなどの工夫をさせていただいていた。その一方、課題を消化しきれずにいる生徒も少なからず存在しており、学校不適応に陥る一因となる恐れがあるため、一律に提出を求めるのではなく、個々の生徒の学習状況を見極めつつ指導する必要がある。次年度も、ICTの活用を含め、個々の生徒に応じた学習指導の在り方も研究したい。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>①基本的生活習慣の確立                  ②安全確保の推進                  ③規範意識の醸成                  ④いじめ防止対策の推進</p>	<p>・欠席、遅刻、早退の理由を把握し、適切な指導を行う                  ・生徒の安全を考え、組織的に対応する                  ・生徒に交通安全に対する意識を高めさせる                  ・予防的な交通安全活動に取り組む                  ・マナー、モラルの意識を高めさせる                  ・あいさつを励行                  ・高校生らしい身だしなみを日常的に意識させる                  ・いじめの未然防止に係る取組を行う                  ・いじめの早期発見、適切な対応につながる方策をとる</p>	<p>・遅刻過多者の累積回数が多い生徒は減少した。                  ・始業ギリギリに駆け込む生徒がおり、交通事故が懸念される。                  ・外部講師による講話、自転車置場マナー指導、「0の日」指導、P T Aとの街頭指導、交通委員による安全マップ作成など多角的に安全に対する指導を行った。                  ・自分のこととして捉えていない生徒が見受けられ、継続して指導する必要がある。                  ・集会・放送などでの一斉指導の場において、ルールの遵守、公共でのマナーについて触れた。今年度はコロナの影響で全体に対して指導する場面が少なかった。                  ・各担当が面接の機会を多く持った。                  ・アンケートを学期に1回行った。いじめの早期発見につながるとともに、いじめの具体例を周知する機会にもなった。                  ・いじめの定義があるものの個々に状況は異なり、判断や対応が難しい。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導	<p>①進路選択能力の育成</p> <p>②進路に応じた進路設計</p> <p>③進路目標の堅持と幅広い視野の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談、進路相談の充実</li> <li>・適切な資料提示</li> <li>・進路検討会・入試情報交換会の充実</li> <li>・入試制度改革への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で回数は少なくなりましたが、進路検討会の前後において、生徒との面談を中心に進路に関する相談ができた。</li> <li>・進路のしおりを中心に指導ができた。</li> <li>・入試情報交換会において、旧3年担任からの情報引継ぎができ、進路検討会においては一人一人のデータを職員全体で確認でき、今後の指導へとつなげることができた。</li> <li>・新しい調査書作成において3学年・教務部と連携して行うことができた。</li> <li>・共通テスト初年度とコロナ禍の大学受験が重なり、生徒の不安も大きかったが、適切な対応と情報提供で乗り切ることができた。</li> </ul>
生徒会活動	<p>①部活動の充実</p> <p>②生徒の力で作り上げる生徒会行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部顧問会議と部長会議を有効活用する</li> <li>・生徒会執行部を中心とした指導体制の確立</li> <li>・生徒の力で各種行事が運営できるように意識を高めていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響を受け、多くの部活動で大会中止を余儀なくされたが、校内の活動においては部顧問・部長が連携し、安全に活動することができた。</li> <li>・多くの生徒が生徒会執行部に立候補し、選挙の結果選ばれた執行部の生徒が文化・運動の両常任委員とともに自主的、意欲的に行事の企画・実行をしてくれた。</li> <li>・3年生が群団の中心となり、1、2年生をうまく巻き込んで行事を盛り上げることができた。次年度も、後輩へ継承していくという点で、3年生には幅広く活躍してもらいたい。</li> </ul>
学校図書館	<p>① 図書館の利用機会、利用者数の増加</p> <p>②利用しやすい図書館作り</p> <p>③視聴覚室の機器の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業、LTでの図書館利用をよびかけ、広報活動、図書委員会の活動を充実させる</li> <li>・利用しやすいよう館内の環境を整える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初の学校再開後に漸く新入生オリエンテーションをクラス単位で実施することができ、また委員会活動も開始することができた。</li> <li>・図書室に集合しての催しは密になることが危惧され、すべて中止とせざるを得なかったが、文化祭では図書委員主催の「槍高生クイズ」を開催し盛況のうちに終えることができた。</li> <li>・2か月ほど休校期間があったが、再開後は来館者も徐々に増加し、年間貸し出し冊数は前年度を上回る結果となった。</li> <li>・夏の図書館主催行事の一つである読書感想文コンクールを実施できなかったことは残念であったので次年度はぜひ実施したい。</li> </ul>
学校保健	<p>①美化活動の充実</p> <p>②環境問題取り組みの充実</p> <p>③保健・安全教育の充実</p> <p>④保健安全指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常清掃・特別清掃の充実</li> <li>・ゴミの分別、古紙回収を徹底</li> <li>・生徒保健委員会活動の充実</li> <li>・心身の健康や安全指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症防止のために、清掃に加えて消毒活動にも積極的に取り組んだ。特別清掃については美化活動(10月)、スノコ清掃、側溝清掃は通常通り実施できた。</li> <li>・現状においてもまだ分別が甘いところがある。弁当ガラなどのゴミも少なくないので指導を行っていききたい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症防止の啓発をも加えて活動を積極的に行うことができた。</li> <li>・熱中症・感染症予防の啓発活動は継続して行っている。特に熱中症予防のために、WBGT測定機器を使った監視と生徒への周知を図ることができた。</li> </ul>
S S H	<p>①探究力向上に向けたプログラム開発</p> <p>②S S Hの成果の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究の充実</li> <li>・教科・科目の垣根を越えた教材開発</li> <li>・卒業生アンケートの分析</li> <li>・課題研究の成果物の分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の課題研究の教材を充実させることができた。</li> <li>・教科・科目の垣根を越えた教材開発が進んだ。特にオンラインでの国際交流事業を進めた。</li> <li>・昨年度行った卒業生へのアンケートの分析により、卒業生の実績が把握できた。さらに課題研究の有用性を検証することができた。</li> <li>・課題研究における生徒の成果物を分析することで、事業の検証を行うとともに、教材の改良を行った。</li> </ul>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
ファッション創造科	<p>①各専門分野の専門的知識・技術の習得</p> <p>②創造力・表現力・判断力・実践力の育成</p> <p>③地域社会に貢献する人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションや保育に関する専門的知識・技術を習得させる</li> <li>・豊かなライフスタイルを創造する能力や実践力等を育成する</li> <li>・地域社会が求める資質や能力の向上を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の影響により、実習や行事など例年通り実施できないことが多々あった。授業はオンラインによる教材の提示など新しい教授方法を模索し、より分かりやすい授業を行うことで各分野の技術向上を図ることができた。</li> <li>・あいちものづくり文化伝承事業・グローバル人材育成事業、地域産業専門講座など様々な外部講師から講義を受け、新しい時代に適応できる能力や視点を育成するきっかけとなった。</li> <li>・地域と連携し、新たな地域活性化の事業に取り組み、資質の向上を図ることができた。また、駅のショーウィンドウに作品展示スペースをいただき学科のPRに繋がった。</li> </ul>
1年	<p>①基礎学力の涵養と発展的な思考への意欲の育成</p> <p>②学習、特別活動における仲間と切磋琢磨する経験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学習法の設定</li> <li>・人間関係の構築</li> <li>・学びの環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に学年通信を発行し、本校に合った学習法を模索する内容や、学習意欲を引き出す話題を生徒に示して、生徒自ら学習に取り組む雰囲気づくりを心掛けた。</li> <li>・新型コロナによる休校の影響で、クラス・部活動などでの人間関係の構築が心配されたため、担任による面談を例年以上に重視し、学年会で情報共有を行った。今後も引き続き生徒の人間関係について注視する必要があると思われる。</li> <li>・2学期以降、学習に対して集中できていない生徒や学習から逃げようとする生徒が目につくようになってきた。来年度以降の学習環境の構築にも影響が考えられるため、早急に担任及び教科担当から意欲的に学習に取り組むよう指導を行う必要がある。</li> </ul>
2年	<p>①自己管理能力の向上</p> <p>②高い進路目標と教養の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・高い進路目標の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安易な遅刻、欠席を抑止するため、繰り返し指導をした。不登校等の長欠者の増加を抑えることができなかった。</li> <li>・毎日の授業を大切に、意欲的に学習に取り組むことができる環境づくりに努めた。部活動と学習の両立を心掛けさせ、家庭学習の定着を促した。</li> <li>・進路検討会や担任との面談を通して、生徒の学習到達度を全職員で共有し、高い進路目標を持つよう指導した。目標を高めることで学力向上を向上させることができた。</li> </ul>
3年	<p>①挑戦し続ける心の育成、仲間との共生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本質を見抜く力の向上</li> <li>・高い進路目標とキャリアの設定</li> <li>・豊かな教養と柔軟な社会性の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ休業中に最上級生としての生活・学習習慣を確立した生徒が多くいた。また課題研究や小論文作成、制作や実習を通じて、単に目の前の課題をこなすのではなくその先にある物事の意味や繋がりを意識して取り組ませる声かけができた。</li> <li>・普通科では進路検討会や面談を通じて、「行ける」大学を探すのではなく「行きたい」大学を目指させるよう指導した結果、多くの生徒が第一志望校を貫くことができた。ファッション創造科では四年制大学への進学者が例年より多く、さらに学問を深めようとする前向きな姿勢が見られた。</li> <li>・学校祭などの行事を通じて、級友や下級生と折衝しながら、相手を思いやる気持ちや物事を完遂させる責任感を身に付けさせることができた。</li> </ul>
総合評価		<p>コロナ禍により教育活動に様々な制限が求められたが、そうした状況でも生徒に創意工夫を凝らして学校行事を企画運営させることで、その主体性を育てられた。またSSHや部活動、ファッション創造科では、これまで以上の成果をあげることもできた。今後も生徒の主体性をより一層引き出すことでグローバル人材の育成に努め、新時代に向けて更なる発展に繋げたい。</p>	